

# 木々だより

vol. 44  
2023 春号

—— 友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌 ——



すずき出版発行「心のうたかれんだあ」(平成7年版)より 詩／坂村真民「光と風のなかで」 画／海野阿育

# 坂村家のアルバム

vol.14

落ちこぼれの子でも決して見捨てなかつた

「詩人の颯声を聴く」

(致知出版社)より

五年生を受け持ち、その子らを卒業させたんですが、体操の時間は子どもたちを川に連れて行った。

(中略)

そこに連れて行くと、子どもたちが夢中になって、魚を捕る。さよりのう、すばしこい海の魚がいましたね。それを手で捕るんです。中に、名人級のものがありました。これは一番できん子でした。いまでいえば、落ちこぼれの子です。貧しい家から来ていますが、字一字知らん。その子が、さより捕りはもう名人でね。「お前は偉いね」とほめたら、先生から初めてほめられたと、もう大変喜びました。



玉名市天水町小天(てんすいまちおあま)の地図

紹介の文章は、父・真民が大好きな話のひとつです。対談形式で、その話し言葉から父の息遣いを感じ取れるようですね。真民が小学校の代用教員として最初に勤務した画図小学校は一年で終わり、天水町小天小学校に転勤になり

ました。そこは有明海に面した、みかん山の連なる風光明媚な地です。母親が住む玉名市田崎の実家からはかなりの距離ですが、自転車通勤をしたとの事。

五年の男子組を受け持ちましたが、生徒の中にそれまで何一つ教えられず、ただ教室の片隅に机だけ与えられて、文字一つ書けない子がいました。あの子は腰掛けさせておくだけでいいですよとの引継ぎ。父親の急逝によりとんだ底を体験した真民は、じっとしておられません。そこで、そろばんを与え、教え始めました。一たす一、一たす二……下の珠が五になると、上の珠をおろす、ただそれだけに、どの位の日数と時間をかけたことか。そのうちこの子はそろばんをすっかり握って、真民先生を待つようになりました。(当時のそろばんは五つ玉)

一方で、代用教員の真民には、体操をどう教えるかわかりません。そこで、紹介の文章となるわけです。……二字も書けない子が、あの素早いさよりを一瞬にして手掴みすることが出来る、四年間放っておかれ先生に話しかけたことがない子が、心をひらいて自分から言葉を発するようになる……五年・六年を受け持ち卒業させる

## 表紙の詩



光と風のなかで(72歳)

木が大きくなろうとするのは  
 少しでも光を浴びたいからだ  
 草がいつもそよいでいるのは  
 少しでも風と遊びたいからだ  
 わたしも  
 光を浴び  
 風と遊び  
 生きてゆこう  
 これからの生を  
 楽しんでゆこう

この詩は、真民が72歳の時に作られた詩です。65歳で詩作一筋の生活ができるようになった真民にとっては、70代が最も充実した年になると感じていたのです。

そして、心に余裕もできてきて、この詩が生まれて来たのです。この年には、人生を前向きに生きようとする次の詩も生まれています。

「これからこれから」

これからこれからと  
 春の鳥たちがやってきて  
 囀るのだ  
 これからこれからと  
 春の花々が咲き出して  
 告げるのだ  
 これからこれからと  
 わたしもわたしに呼びかけて  
 励んでゆこう

までの二年間に、新米先生はとても大きなことを学びました。

真民は22歳から65歳までの教師人生のなかで、転勤するたび、生徒達に言われたことがあります。「先生はどこかちがう、ほかの先生とちがう」と。そして後年「わたしは教員のスタートに、この知恵おくれの子に出会ったことの意義の深さを今も思う。」と綴りました。

さてこの二年間受け持った男子組の少年達との繋がりには、後日談があります。

昭和55年真民71歳のとき第4回正力松太郎賞を貰い、読売新聞に写真入りで掲載されました。

た。この教え子の中の一人の横浜に住むお姉さんが、その記事を切り抜いて弟に送ったそうです。その弟は、あの体の弱い先生は戦争で死んだとばかり思っていたところに生きていることを知り、翌年のお正月(昭和56年)還暦記念の同級会の席上でその切り抜きを披露しました。それを聞いた当時級長だった教え子が、その喜びを電話して来たと言っています。この少年達と過ごした海辺での二年間を古宝玉のように持ち続けていた真民は、戦争という激しい波乱の時代を含む47年間の歳月を思って、その夜はなかなか眠れなかったそうです。さらに彼は、3月11日

に長崎からわざわざ砥部のタンポ堂まで会いに来てくれたのでした。そして、戦死した者・傷痍軍人になった者・病で亡くなった者たちの小学校卒業以来の音信を真民に聞かせてくれました。さて、さより捕りの名人は？ーなんと鳶職になったとの事。

皆さんは「さより」をご存知ですか。愛媛県では初夏から夏にかけて店頭にならびます。細く長く、新鮮なものは薄青く透き通っていて、焼くとそれが真っ白い身となり、どこか気品さえ感じます。幼い頃それを七輪で焼いて、よく坂村家の食卓に上りました。

文/西澤真美子

## 自分を変えてくれた真民先生の詩

坂村真民記念館 ボランティアガイド 長曾我部 保さん

御年84歳、最年長ガイドの長曾我部保さん。家の前を散歩している人にも、坂村真民記念館をおすすめするという愛称「長さん」は、真民さんの詩が人との出会いを広げてくれたと感謝している。



### ◆詩で精神が救われた

私は坂村真民記念館設立時から、ボランティアガイドを務めさせていだだいております。生来、緊張しやすく、人前に出ることが大の苦手な私が、なぜ記念館に来られる方々にお話をしているのか、いまだに自分でも不思議でなりません。

私が50歳代半ばの頃、妻が病気を患い、毎日のように「死にたい」などと口にするようになりました。重く苦しい気持ち私の顔に出ていたのでしょう、ある時勤務先の社長が「何かあったのか」と尋ねてきたのです。事情を話すと、その翌日に妻と私は内子町の施法寺に連れて行かれました。

お寺のご住職は「病気は治せないが、精神は治せるかもしれない」と私の方を見て「それにはあなたが変わらなければならぬよ」と強い口調で言われました。さらに「砥部町に住んでいるのに、真民さんのことを知らないとはー」とも。実は、私は砥部町で生まれ育ちましたが、真民さんのことはおろか、真民さんの詩についても全く知らずにいたのです。ご住職は、真民先生の講話会にも参加されるほど真民詩を学んでおられました。そこで

私は「桃咲く」の詩に出会い、救われたのです。

### ◆人との出会いが自分を作る

それから私と妻は、月に1〜2度の割合で施法寺に通うようになり、真民先生の詩を少しずつ学ぶようになりました。

74歳になったとき、坂村真民記念館が設立され、ボランティアガイドを募集するという事を知りました。「やってみようか？」と自分に問うと「やれやれ！」という自分がいました。「そやな、長くない人生、一番苦手なことをやってみよう」と、知らない人たちの中に飛び込んだのです。

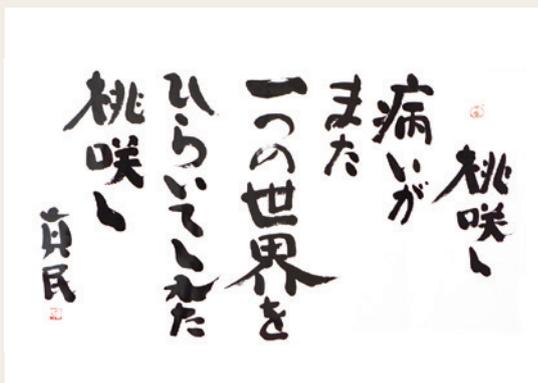
ボランティアガイドとしての私の仕事は、第一展示室の入り口近くにある真民先生の年表を、15分くらいで説明すること。作品の説明はしません。各々が真民詩から、自由に感じ取っていただきたいからです。

記念館に来てから、様々な出会いがありました。2年前に亡くなった、私より10歳も若く、真民先生のことを色々教えてくれたガイド仲間のこととは、忘れられません。また哲学者・森信三と坂村真民の精神を受け継ぐ「寺子屋まなざし塾」の広瀬童心塾

長とは、塾の冊子『まなざし』へ感想を送るなど、交流が続いています。

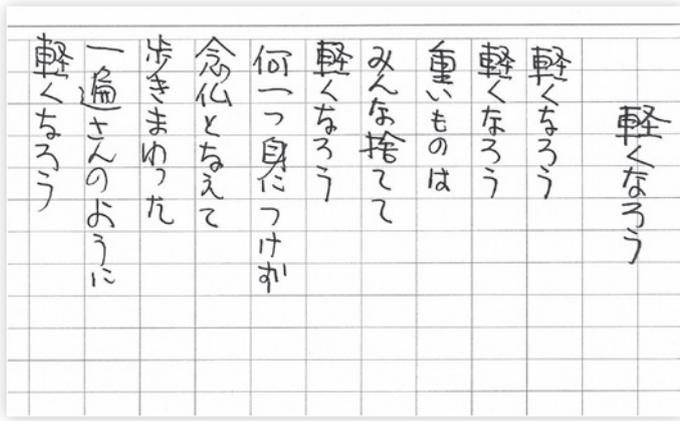
妻は、今も穏やかに病院で療養を続けております。最初は私が患者だったのですが、その院長先生が「長さんの言葉で、第二病棟が増築できたんだ」と言われるのです。記憶にはないのですけれど。

出会いというのは不思議なもの。助けてもらったり、知らずに誰かを助けていたり。たくさんのお会いが今の私を作ってくれました。これもひとえに真民先生のおかげ、生前お会いしたかったと心から思います。でもまだ自分は未完成だと思っているので、閻魔様には待ってもらっているんです。



## なぜ今、一遍さんなのか

新型コロナウイルスによる社会・経済生活の混乱と、ロシアによるウクライナ侵攻という「平和な日常の生活が突然崩壊する」現実を体験している私たちにとって、「生きることの大切さ」と「人間としての生き方」を考え直す時代に生きていると思う。



「軽くなるう(真民67歳の詩)」

このような時代に、「一遍さんの生き方と思想」から学び、そこから得るものが多々あると思う。

① まず、「無差別平等の思想」は、社会の底辺に生きる人々と共に生き、弱者救済を実践した一遍さんの生き方の根底にある思想ですが、コロナ禍の中の「人間としての生き方」を教えてくれる。

この「無差別平等」の考え方は、「それぞれの人、地域、国」をお互いが最大限尊重することでもあり、元寇の時に「敵味方供養」を実践した、一遍さんの「怨親平等の思想」こそ、現代に必要な思想なのではないかと思う。

② 次に、必要なもの以外は持たないという「身軽な生き方」は、まさに「SDGs」の考え方そのものであり、現代に通用する生き方です。

③ さらに、一遍さんの「清貧の生き方」は、コロナ禍を悪用して金儲けを

考える人々や、名誉や地位に執着する世界の人々に、「何のために人は生きるのか」を示してくれていると思う。

また、愛媛の人間として、愛媛で生まれ、愛媛で修行を重ね、全国を遊行された一遍上人を、もっと多くの人に知ってもらいたいと思う。

全国的には、思想家として有名なのだが、愛媛では無名である。もっと愛媛から、「一遍さん」の素晴らしさを発信してゆく必要がある。愛媛に誇るべき、こんな人がいたのだということ。

今回の特別展では、あえて「宗教色」を出来るだけ排除し、「一人の人間としての一遍さん」の魅力を伝え、その生き方の偉大さ、無差別平等の思想と人々への愛の深さを知ってもらいたいと思っている。

館長 西澤孝一



宝蔵寺・一遍上人像

坂村真民記念館開館11周年記念特別展

## 「一遍さんと真民さん展」

～坂村真民がめざした一遍さんの生き方～

開催期間

2023年3月4日(土)～7月2日(日)

月曜日休館(祝日の場合は翌日)

# 真民詩を

## 読み解く

vol.31

# 「未来永劫」

## 未来永劫

一遍さんが行く  
 わたしも行く  
 二人はいつも一緒  
 破れ衣に  
 跣の旅  
 花が  
 散る  
 散る  
 賦算の札に  
 鳥が  
 鳴く  
 唱える声に  
 春夏秋冬  
 未来永劫

今回「ポスター」に使った「未来永劫」という詩は、真民が91歳の時に作った詩です。

最晩年を迎えた真民が、自分の生き方の中心に一遍上人を置き、その人と共に歩むことを「心から楽しんでいる」と言っています。

「未来永劫」ということは、亡くなっ

た後もずっと貴方と一緒に居させてくださいという真民の願いが込められた言葉ですね。

ポスターの絵にあるように、満開の桜の木の下で、二人が楽しく話している姿が、浮かんでくる詩ですね。

坂村真民記念館開館11周年記念特別展

# 一遍さんと 真民さん



「坂村真民がめざした一遍さんの生き方」

2023年 3月4日(土) ▶ 7月2日(日)

開館時間 9:00~17:00 (入場は16:30まで)  
 休館日: 月曜日(祝日の場合は翌日)

記念講演会 2023年3月4日(土)11時~ 坂部町商工会館  
 講師: 横田南嶺老師(福井県立大学名誉教授)

坂村真民記念館  
 〒779-4111 富山県射水市坂部町705 TEL:090-963-0642  
<https://www.sakuramuseum.jp/>

観覧料 新券券 観日券  
 一般 800円 600円  
 高齢者(65以上) 400円 500円  
 高校生・大学生 300円 400円  
 小中学生 300円 400円

坂村真民記念館を応援しています



### 『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り

千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曾木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曾郡南木曾町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫

TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

## 砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



介護付有料老人ホーム

To-be

全78居室/20㎡~24㎡(1F&2F)



住宅型有料老人ホーム

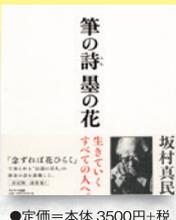
モンレーヴ砥部

全18居室/40㎡~90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院西隣) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

サンマーク出版 坂村真民の本

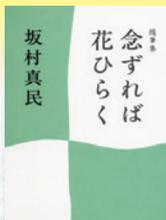
詩墨集  
筆の詩墨の花



●定価=本体 3500円+税

坂村真民記念館  
所蔵の作品を満載!

随筆集  
念ずれば花ひらく



●定価=本体 1800円+税

初めての  
随筆集を復刻!

念ずれば花ひらく



10万部突破の  
超ロングセラー!

いま届けたい、生き方の道しるべ



詩集  
宇宙のまなざし

詩集●定価=本体各1000円+税



詩集  
二度とない人生だから

サンマーク出版

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11  
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167  
<http://www.sunmark.co.jp>

## 広告募集中

「タンポポだより」に広告を出してくださる  
企業・団体等を募集しています。

[広告料]

1枠(タテ60mm×ヨコ170mm) …… 年間10万円

- 年間発行部数/2,000部(年4回発行)
- 送付先/友の会会員、県内社会教育施設、県内旅行・観光業者等その他、記念館の来館者に配布

「タンポポだより」の発行費用は、この広告料で賄っています。それによって、友の会の会員の皆様からの会費は、タンポポだよりの送付料や記念館の活動経費に充てることが出来ます。記念館の活動を充実させるためにも、広告料収入が必要不可欠です。どうぞ、このような趣旨をご理解くださり、広告掲載へのご協力をお願いします。



# 致知出版社 坂村真民シリーズ



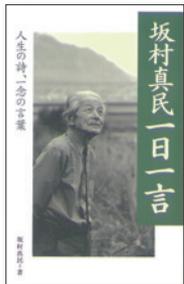
全424頁、  
豪華  
座右版

生涯1万篇以上といわれる  
膨大な詩作の中から366の名詩を精選。  
長年、真民詩に魅せられ人生を歩む道標としてきた  
『致知』編集長が渾身の思いで編纂に当たりました。  
心が弱った時、悲しみに直面した時、  
ぜひ本書を紐解いていただき、  
心の糧となる詩に出逢っていただければと願っています。

## 坂村真民 一日一詩

坂村真民=著 / 藤尾秀昭=編  
定価=本体2,000円+税  
四六判上製

人生で口ずさみたくなる  
言葉が見つかる



**坂村真民 一日一言**  
坂村真民=著  
定価=本体1,143円+税  
新書判

円覚寺派管長が選んだ  
真民詩100選



**坂村真民 詩集百選**  
坂村真民=著 / 横田南嶺=選  
定価=本体1,300円+税  
新書判

真民氏が自らを励まし、  
勇気づけるために綴った87篇の詩



**坂村真民 箴言詩集 天を仰いで**  
坂村真民=著 / 西澤孝一=編  
定価=本体1,300円+税  
四六判並製

月刊『致知』に掲載された  
幻のインタビュー集



**詩人の 颯声を聴く**  
坂村真民=著 / 藤尾秀昭=聞き手  
定価=本体1,300円+税  
B6変型判上製

ち ち しゅ っ ぱ ん し ゃ  
**致知出版社**

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-24-9  
TEL.03-3796-2118 FAX.03-3796-2109

オンラインショップでも  
ご購入できます!

致知オンライン  検索

## 坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

<b>パスポート会員</b> 年会費2000円	<b>特典</b> 会員証で入館無料1人 ほか
<b>一般会員</b> 年会費5000円	<b>特典</b> 会員証で入館無料1人 ほか
<b>特別会員</b> 年会費10,000円	<b>特典</b> 会員証で入館無料2人 ほか
<b>法人会員</b> 年会費10,000円	<b>特典</b> 会員証で入館無料2人、 観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧ください

〔編集後記〕

「坂村家のアルバム」で舞台となっている天水町小天は、2016年の企画展「坂村真民と二人の母」の取材のために訪れた地です。時は12月、黄色いみかんが光り輝く山々から青く美しい明海を眺めると、とても懐かしい思いに駆られました。愛媛県南予地方のみかん山と海の景色にそっくりだったのです。(真美子)

タンポポだより vol.44 春号

令和5年3月1日発行

発行元 / 坂村真民記念館友の会事務局

〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内

TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

〔坂村真民記念館〕

開館時間 / 9~17時(入館は16時30分まで)

休館日 / 月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日~1月1日

入館料 / 65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、

小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり